

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

東京営業所を開設しました。

このたび弊社では平成26年12月1日より東京営業所を開設しました。
 これを機に会社一丸となって皆様に更なる充実したサービスを心がけてまいります。
 今後とも株式会社 東部を宜しくお願いいたします。

株式会社 東部 東京営業所

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 朝日生命幡ヶ谷ビル6階
 TEL:03-3376-0123 / FAX:03-3376-0124



これからも
 日々精進して
 まいります

京王線
 はたがや
 「幡ヶ谷」駅
 徒歩1分

e-pile 人に、地球に、やさしい再生可能な「循環型杭工法」

国土交通省大臣認定工法

現場で生まれた杭は
 やはり実践にも強かった。



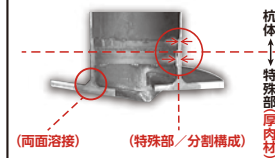
建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

全ての鍵は杭先端にあり

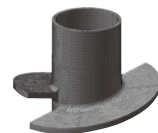
杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を・・・「菱型穴」により解決しました。
- 拡翼変形の問題を・・・「特殊部」により解決しました。
- コストの問題を・・・「自社施工」により解決しました。

■高力構造/拡翼断面図



■FEM解析図

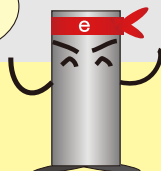


すまい給付金の実施状況について(平成26年9月末時点)

詳しくは国土交通省のホームページをご覧ください

平成26年11月11日国土交通省よりすまい給付金の実施状況について発表がありました。
 すまい給付金は消費税率引上げによる負担増を緩和するため、本年4月より実施されています。
 給付対象は4月以降の引上げ後の消費税率による引渡し分が対象となり、9月末時点における実施状況は、申請数12,214件に対して、給付実績8,730件、7,710戸、約19億7千万円となっております。今後は、関係機関の協力も得ながら、申請忘れ等が発生しないよう、周知等を進めていく予定です。
 なお、申請は引渡しから1年以内であればいつでも可能です。

引越しをしたら
 すぐに申請
 してみてください!!



制度内容や申請方法に関するお問い合わせは、すまい給付金事務局

0570-064-186 までお願いします。

平成26年4月～9月のすまい給付金の実地状況

	給付実績※1 (給付額)	申請数
新築住宅	8,323件※2 7,340戸 (1,875,627千円)	11,614件
中古住宅	407件 370戸 (99,214千円)	600件
合計	8,730件 7,710戸 (1,974,841千円)	12,214件

※1 審査が完了したものを。

※2 持分保有者単位での申請のため件数と戸数は異なる。

ワンポイント

健康コラム

胸やけがする矢印

ここ最近、グッと寒くなって参りましたが皆様いかがお過ごしですか?
 風邪など引いていませんか?また12月は忘年会などのイベントが多く、
 ついつい食べ過ぎや飲み過ぎてしまう事もあるのではない
 でしょうか?

そこで、今回の健康コラムのテーマは「胸やけがする」です!
 はやりこの時期、胸やけを訴える人が増えています。

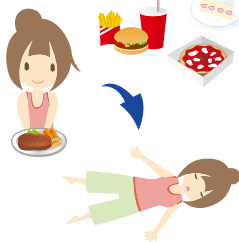
なぜ胸やけは起きてしまうのか?

胸やけとは、胃酸を多く含んだ胃内内容物が食道へ逆流する事により生じるもので、しばしば下部食道の粘膜が炎症しています。

このような病態を総称して「胃食道逆流症」といいます。

胃食道逆流症の発生は、食道下部にある括約筋(食道と胃との境にあって、胃内内容物が容易には食道内へ逆流しないように出口を締め付けている筋肉)を中心とする逆流防止機構の低下、食道蠕動(ぜんどう)運動の低下、胃内内容物の増加、胃排出の低下などが複雑に関係しているのです。

食後の特に食べ過ぎ、脂肪分の多い食事をしたときに増強することが多く、また、横になったり、体を屈曲することで、症状が悪化したり、出現する頻度が増すことが多いのも特徴で、通常、胃酸の分泌を抑える薬(制酸薬)で軽減されます。



胸やけが出たときは、水や牛乳を飲めば大抵は治まりますが、頻回に症状が認められる場合には胃食道逆流症が考えられますので、一度、かかりつけの医師の診察を受け方が良いでしょう!

最近では、コンビニエンスストアなどで手軽に胸やけに効くドリンク剤なども売っているので、心配な方は、食べる&飲む前に飲んでおくのも良いかと思えます。

では、皆様!良いお年を♪

対策をしっかり考えて年末みんなでおいしいお酒を飲みましょう♪



経理マンが行く

地震

一段と寒さが増した今日この頃ですが、そろそろ今年も終わりに近づいて参りました。1月の大雪から始まり、猛暑の夏を終え、短い秋を超えてまた冬将軍の到来です。体調を整え元気に年を越えましょう。今回のテーマは地震です。当社が得意とする地盤の分野でもありますが、記憶の新しいところでは、長野県の地震です。テレビから久々に地震速報のチャイムを聞き驚いた人もいたかと思いますが、今回は少し地震のお話をしたいと思います。日本は、世界の面積の1%にもならない国なのに、世界の約10%もの地震が発生しています。体に感じない小さな地震までいれると、いつもどこかで地震が起こっている事になります。そう考えると、日本は世界でも有数の地震国だという事が判りますね。

その日本で暮らす私たちは、命や財産を守る為に地震やそれによって起こりうる様々な自然現象を正しく理解し、上手に付き合っていく必要があります。文部科学省による地震調査委員会が発表した「全国地震動予測地図」は今後、30年以内で震度6弱の揺れに見舞われる確率を示したものです。確率が最も高いのは、静岡市の89.8%、津市の85.9%、奈良市の67.7%となっており、このほか、東京(都庁付近)は19.6%、横浜市は66.9%、名古屋市45.3%、岐阜市17.2%、和歌山市48.2%、大阪市60.3%、徳島市61.2%、高知市は63.9%という高い確率が挙げられています。この確率とは別に大地震が起きていることも事実であり、日本全国のどこで大地震が今起きてもおかしくない状況と言えます。

地震の揺れの性質は「振幅」と「周期」に分けて考えます。「振幅」は地震の揺れの大きさのことで、「今の地震は大きかった」という場合には、この振幅が大きかったということです。また「周期」とは、時計の振り子のように地震の揺れが行って戻るといった往復するまでにかかる時間のことです。「ガタガタ揺れる地震」という比較的周期が短く、「グラグラと揺れる地震」という比較的周期が長いわけです。この地震の振幅と周期は地盤によって左右されますので、柔らかい地盤では振幅が大きく周期が長くなる傾向があり、固い地盤では振幅が小さく周期が短くなる傾向があります。このような地盤が持つ揺れの周期の特性を特に「卓越周期」と呼びます。

では地盤の上に家を建てる場合、その地盤の固さを判らなければ家を建てる事は出来ません。そこで、地盤調査等でデータを取り地盤のもつ性質を調べる訳です。地盤のうち、沖積層と言われる地層は比較的新しく、固くしまっていないので、それほど強くありません。私達は普段この沖積層の上に建物を建てています。沖積層では中高層ビルのような重い建物を支え切れませんので、より深い所にある固い地盤まで建物の力を伝えて支える必要があります。この建物を支える地盤を「支持層」と呼びます。

では、建物を支える方法としてどのような方法があるかという点、地表から数メートルに固くて頑丈な地盤がある場合は、その上に建物の基礎を直接つくる「直接基礎」を使い、固くて頑丈な地盤が深い所にしかない場合は、そこまで杭を打った上に建物の基礎をつくる「杭基礎」を使います。また、建物の構造にも地震の揺れは大きく係わりますので、その地盤の性質を知り、建物の被害をなるべく軽減し、住む人の安全を確保できる事を目標に、我々地盤にたずさわる者達は日々研究と努力を重ねています。また、今の新耐震基準も昔に比べるとはるかに進んで、建物は確実に耐震的に「進化」していると言えます。